

# Toyota Municipal Museum of Art Press Release

豊田市美術館 プレスリリース

2020.11.6



Toyota  
Municipal  
Museum  
of Art

豊田市美術館



昭和2年3月 東京美術学校西洋画科卒業写真

じょうとかい

## わが青春の上社会

—昭和を生きた洋画家たち

2021(令和3)年1月5日(火)-3月14日(日)

| 会期中、一部展示替えがあります。前期 1月5日(火)-2月7日(日)、後期2月9日(火)-3月14日(日)

| 同時開催「デザインあ展」

休館日： 月曜日(1月11日は開館)

開館時間： 午前10:00-午後5:30(入場は午後5:00まで)

主催： 豊田市美術館、神戸市立小磯記念美術館、中日新聞社

観覧料： 一般1,000円(800円)、高校・大学生700円(500円)、中学生以下無料

( )内は前売り及び20名以上の団体料金。障がい者手帳をお持ちの方(介添者1名)、豊田市内在住又は在学の高校生及び豊田市内在住の75歳以上は無料(要証明)

※前売券販売場所(期間)：豊田市美術館(12月13日(日)まで)、T-FACE 2Fインフォメーション(1月4日(月)まで)

※本展は、神戸市立小磯記念美術館との共同企画展です。

神戸市立小磯記念美術館会期：2020(令和2)年10月3日(土)-12月13日(日)

## 展覧会名

### わが青春の上社会—昭和を生きた洋画家たち

Jotokai: Showa Period Painters Recapture Their Youth

## 開催趣旨

「大正」から「昭和」への改元は1926年12月25日のこと。翌1927(昭和2)年3月、「昭和」になって初めての春に、東京美術学校(現東京藝術大学)西洋画科を40余名の若者たちが卒業しました。「上社会」は1927年の西洋画科卒業生全員(中途退学者も含む)で結成した級友会です。その名称は彼らの母校がある「上野の杜」に因んでいます。各自の自由な思想を尊重し干渉しない関係性をモットーに、卒業した1927年の9月には、早くも上社会第1回展を開催します。在学中に帝展に初入選を果たした者も多く、おしなべて優秀と当初から評され、戦前には10名以上がヨーロッパ留学を果たしました。官展や在野展への参加や結成など、それぞれの道を歩みながら多くは昭和期終盤まで画家として活躍します。のちに文化勲章受章者を3名(牛島憲之、小磯良平、荻須高德)輩出したことも、極めてまれなことです。

1945年に終戦を迎えると、40歳代後半となっていた彼らは混迷する時代に画家としてなすべきことを今一度自らに問い直します。戦後は洋画壇の軸を担ったり、日本を離れアメリカなど異国に新天地を求めたり、地方の美術振興に尽力したりあるいは画壇から離れ独歩の道を歩んだりしました。

上社会展は戦後一時期に中断しましたがほぼ毎年開催され、1994年まで継続しました。晩年はますます互いの活動を認め合い、また交友や消息を確認する場として、緩やかながら確かにつながっていたのです。

彼らの多くは昭和の始まりとともに画家となり、昭和のさなかに生涯を終えました。当時最もアカデミックな美術教育を受けながら、彼らの画業は千差万別です。それらを俯瞰することで、「昭和」という時代における洋画壇の一端と、画家としての彼らの生きざまが立ち現れます。「昭和」からすでに31年、平成を隔て昭和に描かれた彼らの作品を改めてみつめることで、本展が令和の時代を見通すヒントとなれば幸いです。

## 展示予定作品

約120点、他書簡、ポスター等資料



## 出品作家

青山 襄、石井清夫、犬丸順衛、猪熊弦一郎、牛島憲之、大月源二、岡田謙三、荻須高德、  
荻野映彦、加山四郎、小磯良平、高野三三男、小堀四郎、近藤啓二、島野重之、杉浦俊雄、  
染木 煦、高島 功、高橋弘二、永田一脩、中西利雄、橋口康雄、菱田武夫、深井修次、  
藤岡 一、水上信雄、森 達雄、矢田清四郎、山口長男  
〈顧問〉藤島武二、岡田三郎助、和田英作、小林萬吾、長原孝太郎

## 章

- |                      |  |
|----------------------|--|
| <b>序 1922-1927</b>   | 1 結成前夜—東京美術学校と関東大震災<br>2 いざ、上社会結成                  |
| <b>I 1927-1936</b>   | 1 画家としての始まり、パリ留学<br>2 それぞれの選択<br>3 帝展騒動と「新制作派協会」結成 |
| <b>II 1937-1945</b>  | 1 戦時中の制作活動<br>2 戦争と疎開                              |
| <b>III 1946-1994</b> | 1 新たな時流の中で 葛藤と開花<br>2 上社会再開一年々去来の花                 |

## 関連事業

決まり次第豊田市美術館HPでお知らせします。

## お問合せ

豊田市美術館  
〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町8丁目5番地1  
担当:成瀬美幸、西崎紀衣  
電話0565-34-6610(代表)、0565-34-3131(学芸直通)  
E-mail:gakugei@city.toyota.aichi.jp

「わが青春の上社会—昭和を生きた洋画家たち」  
 広報用画像について

画像等の資料をご希望の方は以下を記入のうえ、Faxかe-mailでお送りください。

送り先：豊田市美術館 庶務担当：吉兼（よしかね）、籠谷（こもりや） 学芸担当：千葉

Tel 0565-34-6748 Fax 0565-36-5103

e-mail:bijutsukan1@city.toyota.aichi.jp

お名前 \_\_\_\_\_ 様

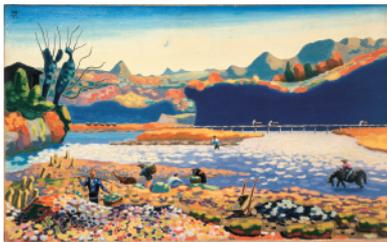
ご所属 \_\_\_\_\_ Tel \_\_\_\_\_

Fax \_\_\_\_\_ e-mail \_\_\_\_\_

掲載紙／メディア名 \_\_\_\_\_ 発売、放送予定日 \_\_\_\_\_

必要な画像等の番号 \_\_\_\_\_ 必要な鑑賞券枚数(最大5組10名分) \_\_\_\_\_ 枚

\*読者プレゼント等のため希望する場合のみご記入ください



1



2



3



4



5



6



7



8

1. 牛島 憲之《秋川》1934年 油彩、カンヴァス 89.5×145.5cm 熊本県立美術館
2. 山口 長男《池》1936年 油彩、カンヴァス 65.3×92.0cm 東京国立近代美術館
3. 小磯 良平《着物の女》1936年 油彩、カンヴァス 90.9×72.7cm 神戸市立小磯記念美術館
4. 中西 利雄《夏の海岸》1936年 水彩、カンヴァス 70.0×97.0cm 東京国立近代美術館
5. 猪熊弦一郎《晴れた一日》1992年 アクリル、カンヴァス 136.0×122.0cm 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 © 公益財団法人ミモカ美術振興財団
6. 小堀 四郎《冬の花束》1946年 油彩、カンヴァス 60.8×50.2cm 豊田市美術館
7. 岡田 謙三《入江》1973年 油彩、カンヴァス 207.5×157.5cm 京都国立近代美術館
8. 矢田 清四郎《五月の出雲路》1975年 油彩、カンヴァス 128.2×160.0cm 個人蔵

注意事項

作品写真のトリミング、文字載せはご遠慮下さい。

作品タイトル等のキャプションを必ず表記してください。「素材・技法・寸法」については省略可です。

情報確認のため事前にグラ刷り等をお送りください。

掲載(放映)終了後に、掲載出版物または録画メディアを広報担当宛てにお送りください。インターネットに掲載した場合はURLをお知らせください。

画像の二次使用や転載はお断りいたします。提供するデータは使用后必ず破棄してください。

美術館使用欄 画像提供の依頼日 年 月 日 画像送付 校正 修正 配信・配本